

ひまわり海岸 ～堀越そのえの世界を歌う～

1999年から「シルクロード」という同人誌で知り合った作詞家堀越そのえ氏とのユニット作品を創りはじめ、今年で20周年。数多くの作品群の中から、厳選した10曲を作曲家山田ゆうすけが自らカバーして、「ひまわり海岸～堀越そのえの世界を歌う～」をリリースした。いろいろなアーティストに提供した作品も多いが、新たに2曲を書き下ろし、加えて杉山直樹氏がこのアルバムのためにその鋭いセンス、絶妙なアレンジで、楽曲の世界により深い味わいを加えてくれた。イチオシはタイトル曲の「ひまわり海岸」そして「涙を思い出すまで」「泣風笛」とそのえさんは言う!彼女のテーマだと思う「いのち」「家族」「仲間」「こころの叫び」「夢」「明日への希望」などを意識しながら、ただいた詞にメロディを付けるというドラマの演出をさせていただいた素晴らしい20年間であった。これからのドラマ創りも、楽しみである。



2020年1月 Yusuke.Yamada

1. ひまわり海岸

あの震災以来、被災地の沿岸部では毎年ひまわりの花が咲いている。鎮魂と復興の象徴として咲くこの花に、命の尊さと生きる希望を込めた人間愛ソング。全日本こころの歌謡選手権大会課題曲で日野美歌が歌唱。

2016年から1年間BSジャパン報道番組「サタディ9」のエンディングテーマ曲に採用された。



2. 涙を思い出すまで

人はあまりにも強い悲しみに出会うと、心が凍りついて涙が出なくなる。心の氷が溶けて君が泣けるようになるまで、僕はずっとそばで見守っているよ。そんな寄り添いの歌。2002年Push Pullのアルバム「Premium110」の最初の収録曲であったが今回アレンジも新たにリメイク!



3. 恋月華

2001年、田川寿美10周年記念「夏から秋へ～25歳」6曲入りアルバム(日本コロムビア)1番目の収録曲。

「少しだけ演歌の香りがするバラード」がコンセプト。堀越そのえ作詞家デビュー作品。山田ゆうすけとコンビを組んで初のメジャー作品でもある。記念すべき一曲。



4. 泣風笛 ～なきかぜ～

「次の冬が廻れば あんたの享年を追い越す私」。この詞のモチーフ、実は堀越の実弟が急逝した時の心情を描いたもの。切ないメロディが、泣いてる風の口笛のように胸にしみる。

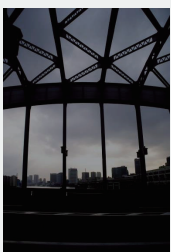
2002年日本作曲家協会主催「新しい日本の歌コンテスト」で作曲・水島正和、歌唱・川中美幸でグランプリを受賞した作品。同時期に山田ゆうすけもこの詞に別のメロディを付けていた…。ここに初公開!



5. やさぐれて

いまどきこんな「やさぐれた」「重い女」など絶滅したのでは?だからこそ、こんなにも恋に一途な女がいたら…。そんな昭和チックな夢を、ゲームセンターという現代のシーンに描いてみた歌謡ファンタジー。

どんなに今はつらくても、「あたしの朝が来る」という主人公に希望を描いた。



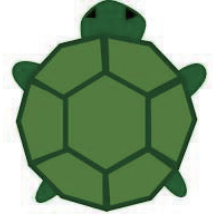


6. 熱帯夜

眠れない夏の夜。熱いのは気温のせいだけじゃなく、恋のボルテージが今夜、上がっているからかも……。2002年、「日本クラウン創立40周年記念流行歌作品作詞コンテスト優秀賞受賞曲」に山田ゆうすけが軽快なメロを付けた！

7. 名無しのカメ

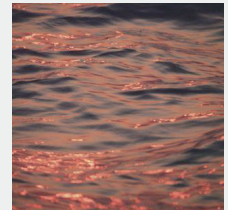
サラリーマンの悲哀をカメに重ねて描いた妙曲。背中に家族を乗せたお父さん。歩みはのろいし、鯛や鮫にはなれぬけど、カメにはカメの幸せがある。親父世代共感ソング。山田・堀越コンビ作品の中でも、かなり異色の一曲。杉山直樹のインスピレーションから生まれた絶妙なアレンジが、さらに味を深めている。



8. 行き止まりの海

遅すぎた出逢い。もう若くはない二人の恋は、進むのも戻るのも失うものが多すぎる。行き止まりの防波堤を人生の岐路に重ねた悲恋ソング。

歌詞の重たさを、山田ゆうすけの洗練されたメロディが良いバランスにしている、80年代風の歌謡ポップス。



9. 幸せの時計

銀婚式も越えた二人。涙さえも人生の彩りと思える年齢に。命の振り子が止まるその日まで、これからも一緒に時を刻もう。夫から妻へのアゲイン・ラブソング。2006年に仙台のシンガーソングライター〈亜KIRA〉がWAVE MASTERよりリリース、現在もTBCラジオ(東北放送)の「亜KIRAのハートフルディ」のテーマソングに採用中。



10. 銀河のしずく

哀しい時、涙が頬をこぼれるのは、人はみんな銀河から生まれた愛のひとしずくだから。あなたの哀しみは私の哀しみ。ひとりじゃないよ。大丈夫。童謡にも似た、普遍的でやさしい歌。宮沢賢治のふるさと、岩手県花巻市の降りそそぐような星空を見て生まれた詞である。

＝ 山田ゆうすけ プロフィール ＝

元々、オフコースのコピーバンド「Push Pull」のキーボーディスト&バンドマスターの活動の中からオリジナル曲を書くようになる。1998年日本作曲家協会主催第3回ソングコンテストで美川憲一に作品提供した『HUN!』でグランプリ受賞を機に作曲家としてデビューした。コンテストの審査員であった故三木たかし先生の指導を受け、それまでのポップス一辺倒から歌謡曲作家として目覚めた。その後、「Push Pull Premium110」(2009)「娘に贈るLet It Be」(2014)などシンガーソングライターとしても活動を開始した。女性の切ない恋を歌ったラブソング、を哀愁を込めて歌うその世界は、昔「初恋」「踊り子」などをヒットさせながら早く世を去った村下孝蔵と重ねて楽しむファン(昔の少女たち)も多く、哀愁の歌を歌い続ける。歌声に清潔な色気があると定評があり、この年代の男性歌手には珍しい「セクシー・クリーンボイス」系。

＝ 堀越そのえ プロフィール ＝

高校生の頃から、独学で作詞を始める。1984年新人作詞家&作曲家の会・「シルクロード」に入会。1998年大阪府主催、献血キャンペーン・ソング特賞受賞。(「Little Angel～心やさしき者へ～」作曲・河島英五 歌唱・佐藤夕美子)1998～2001年、作詞家・松井五郎氏の指導のもと、プロのコンペ等で修行。2001年、田川寿美10周年記念アルバム「寿美25歳・夏から秋へ」『恋月華』にて作詞家デビュー。2002年、日本クラウン創立40周年記念流行歌作詞作品コンテスト優秀賞受賞(「熱帯夜」)。2002年日本作曲家協会コンテスト入賞『泣風笛』川中美幸。2013河北新報「まちかどエッセー」連載。仙台コミュニケーションアート専門学校作詞技法講師